

自己点検・評価報告

2025年

京都大学人文科学研究所



2025年6月末現在

I 研究所の概要

I 研究所の概要

目的

多民族・多文化間の調和ある共生に資する知見を人文科学の分野から発信している。2010年度より共同利用・共同研究拠点の「人文学諸領域の複合的共同研究国際拠点」として世界的視野から複数文化の生成、変動、相互交渉等を研究し、地球社会の調和ある共存に資する学術的知見を提供している。

組織

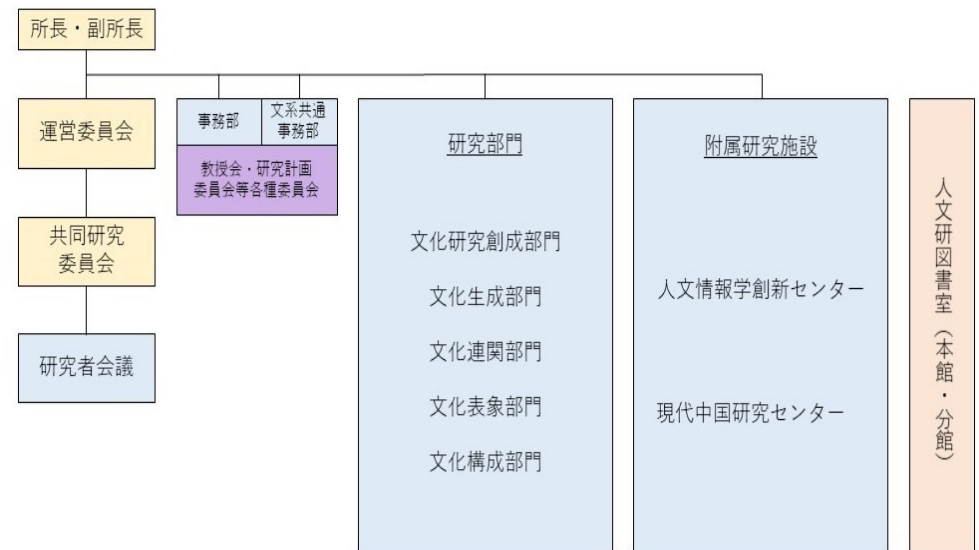
5部門(文化研究創生、文化生成、文化連関、文化表象、文化構成)
2附属研究施設(人文情報学創新センター、現代中国研究センター)

研究体制

多様な関心に基づく個人研究
高頻度で開催されるハイレベルの共同研究
公募型10件、公募型以外23件 (R6年度)

資料

図書 約68万冊、雑誌 約1万730種
他に考古美術資料約12万点
地理民俗資料(華北交通写真資料)約4万点
文革期刊行物資料115箱
映画・演劇資料約1万5千点



Ⅱ 活動状況

1. 共同研究 (1) 共同研究の募集・種類

① 課題公募班(A班):

課題自体を公募(班長は所外の研究者)

一般: 原則3年、年10回前後の研究会を開催

萌芽: 班長は45歳以下、研究会・公開シンポジウムの開催(年2回以上)

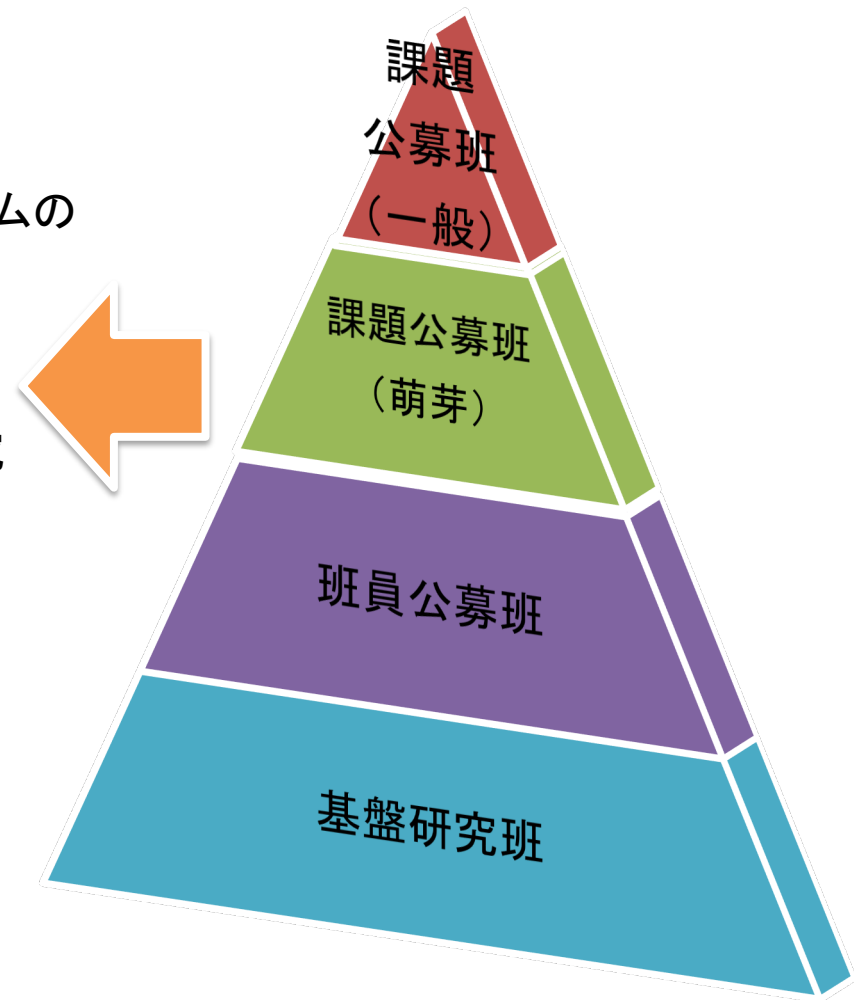
② 班員公募班(B班):

課題は所内で選考し、班員を募集し、所内の研究者が班長を務める3～5年のビッグ・プロジェクト

③ 基盤研究班(C班):

B班と同じく隔週または毎週、研究会を開催

課題の性質に合わせた多様な研究班が存在、C班がA・B班の基礎研究・リサーチの役割を果たすなど、相互に連携を保つ



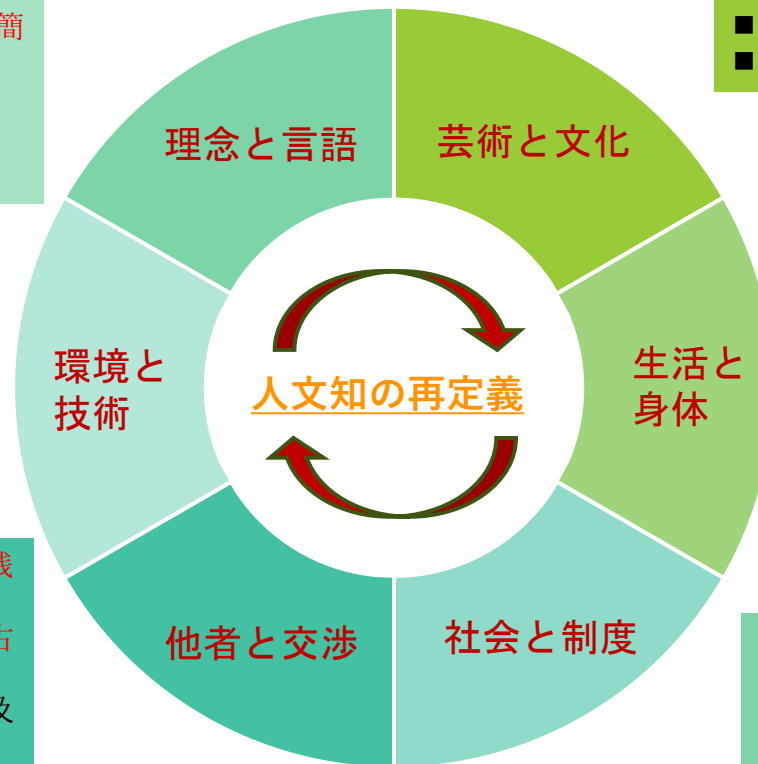
1. 共同研究 (2) 共同研究の目的

共同研究班：「複層横断文化連環学」の6つのテーマ
世界的視座から文化の創成・接触・変容を研究（2025年度）

- 日本語史研究方法論の深化・刷新
- 上古中国における書写の解明：戦国楚簡を中心に
- 東方文化研究所旧蔵漢籍の整理と研究
- 隋唐石刻資料の研究
- 『広弘明集』に見る中国中世在家仏教

- 漢籍共同研究システムの構築
- モノ・知識・環境
- 古典中国語コーパスの応用研究
- 東アジア伝統科学における自然と人間
- 地球科学構想と19世紀ロシア社会

- 中日の近代哲学・思想の交差とその実践
- 「日本のアジア主義」再考
- 漢語・非漢語史料に基づく内陸アジア古代交通の社会・経済基盤
- アジアにおける宗教諸文化の越境的波及と「地域」創出
- 交流と相克のユーラシア東方史
- 「異端」の人文学
- チベットにおけるコミュニケーションツールの研究—書簡文化の歴史的変遷と現代的意義—



※赤字は課題公募班

- ポスト=ヒューマン時代の基点としてのフランス象徴主義
- 東アジアの宗教美術と社会
- 文化資源と文化運動
- 『玉燭宝典』研究
- 中国近世の文学理論と表現の技法

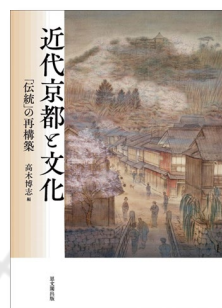
- 中国生活文化の思想史
- 子どもの基地被害に関する歴史的研究所—1950年代の多摩地域に着目して
- 記憶と身体の人文学—非言語媒体の表現による体験的記憶継承の可能性を求めて
- 高度経済成長期の生活史
- トラウマ概念の系譜再考—学際的探求によるトラウマ研究のアップデート
- 沖縄県南城市の歴史・民俗資料の調査と分析

- 満洲語檔案に記録されたユーラシア中央域の世界
- 近世・近代の姓氏や戸籍を巡る学際的研究
- 中国社会経済制度の再定位
- 秦漢法制史料の研究
- 情報と近現代中国
- 日本近世における幕領社会の研究
- 高等教育機関における労働組合活動の史的研究

1. 共同研究 (3) 方法論の伝統と継承

- 共同研究の「草分け」
- 設立以来の方法論である3つの柱を軸とした共同研究

高木博志 編
『近代京都と文化:「伝統」再構築』
2023年(令和5年)



桑原武夫
18世紀フランス研究
『ルソー研究』
1951年(昭和26年)



岩尾一史・池田 巧(編)『チベットの歴史と社会』上下、
2021年(令和3年)



小泉 義之・立木 康介
編『フーコー研究』
2021年(令和3年)



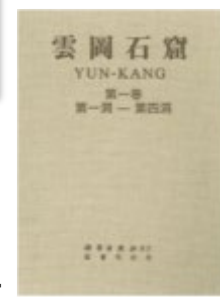
吉川幸次郎
元代雜劇の研究
『元曲選釋』
1951・52年(昭和26・27年)

原典の会読

学際的研究
学界セクショナリズム
の打破

現地調査

水野清一
雲岡石窟調査
『雲岡石窟』中国語版
2014年(平成26年)ー
2018年(平成30年)



1. 共同研究

(4) 共同研究班の開催状況と班員構成

- ・ 30の共同研究班を組織
- ・ 毎週または隔週で研究会を開催ー延べ396回の研究会を開催
- ・ 班員の半分以上が学外のメンバーで構成

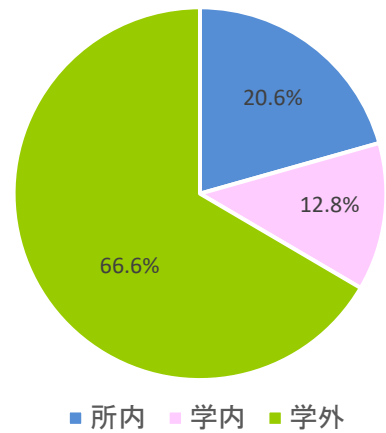
(2024年度実績)

班員の構成

班員の所属	人数
所内	180
学内	112
学外	581
(大学院生)	(74)
合計	873

学外所属の内訳	人数
国立	155
公立	32
私立	242
他	152

班員の所内・学内・学外割合



開かれた共同研究拠点として活動

1. 共同研究

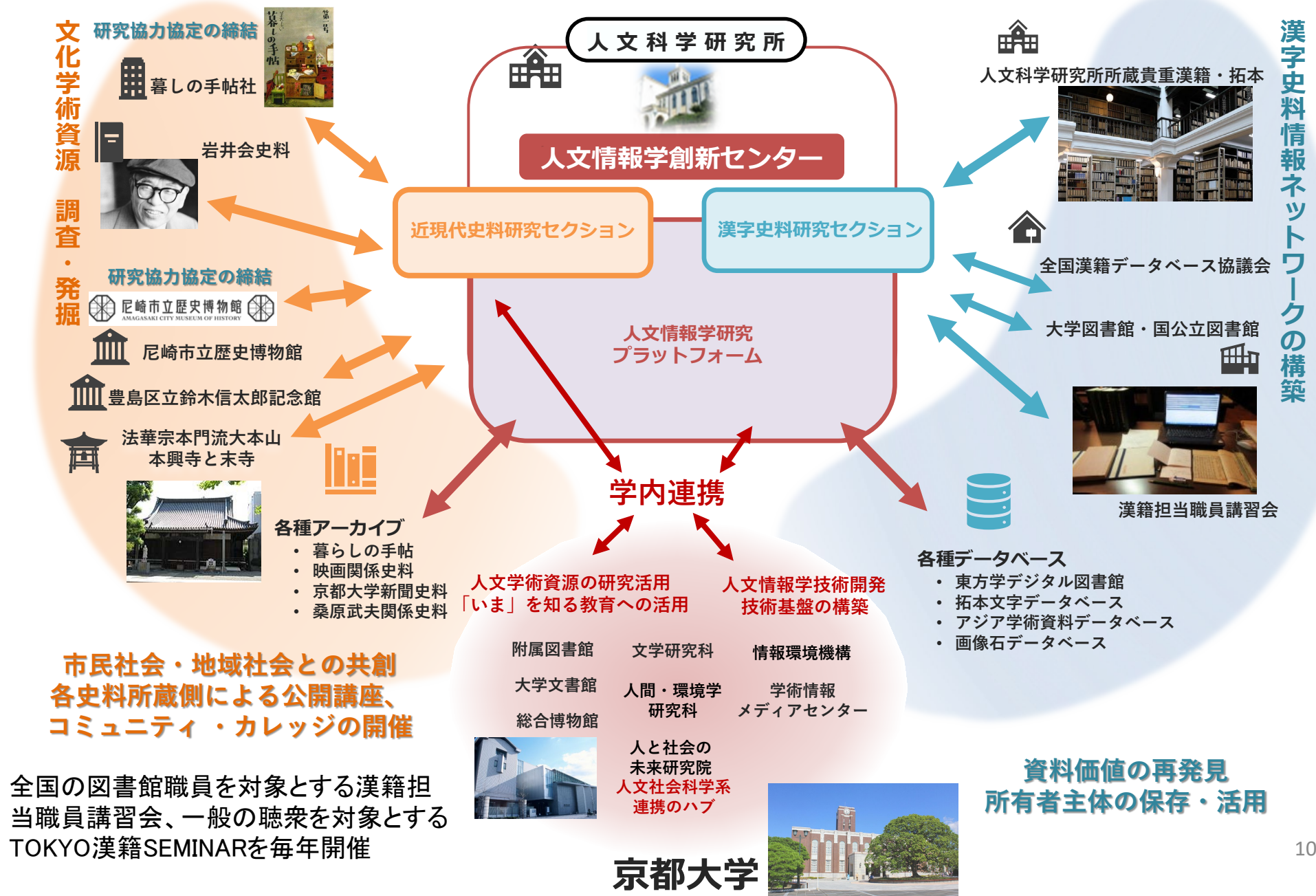
(5) 共同研究班への参加状況(2024年度延べ人数)



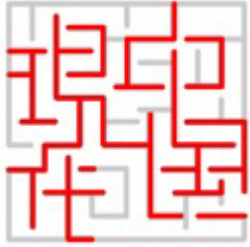
396回開催した研究会の延べ参加者

区分	延べ人数			
京都大学	2,730人	うち、 海外研究者 1,118人	うち、 若手研究者 (35歳以下) 1,483人	うち、 大学院生 908人
国立大学	1,057人			
公立大学	228人			
私立大学	1,607人			
大学共同利用機関法人	41人			
独立行政法人等	74人			
民間機関	158人			
外国機関	598人			
その他	350人			
合計	6,843人	(うち、女性研究者 2,284人)		

2. 共同利用 (1) 附属施設 人文情報学創新センター



2. 共同利用 (2) 附属施設 現代中国研究センター



2007年設立

人文学的・歴史学的パースペクティブから現代中国を分析

二つのアプローチに基づく研究班により総合的に現代中国を把握
政治史・文化史的アプローチ 社会史・経済史的アプローチ

中国語・英語による積極的発信
出版と国際会議開催

研究基盤整備

国際ワークショップ開催

現代中国研究センター
関連刊行物

現代中国情報資料集積基地
(新聞・新編地方史・地図を収集)

現代中国共同研究室
(外国人・若手研究者が共同利用)



2. 共同利用 (3) 学術資源のデジタル発信

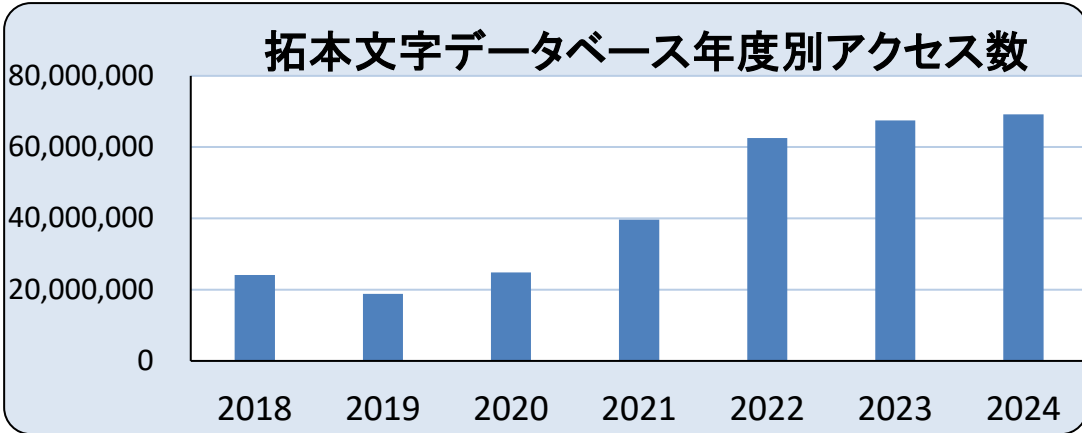
・ データベースの利用状況 一日当たり利用件数 30万件

データベース名	アクセス数
京都大学人文科学研究所 所蔵石刻拓本資料 (拓本文字データベース)	69,180,753
全国漢籍データベース	17,899,031
東方学デジタル図書館	16,587,792

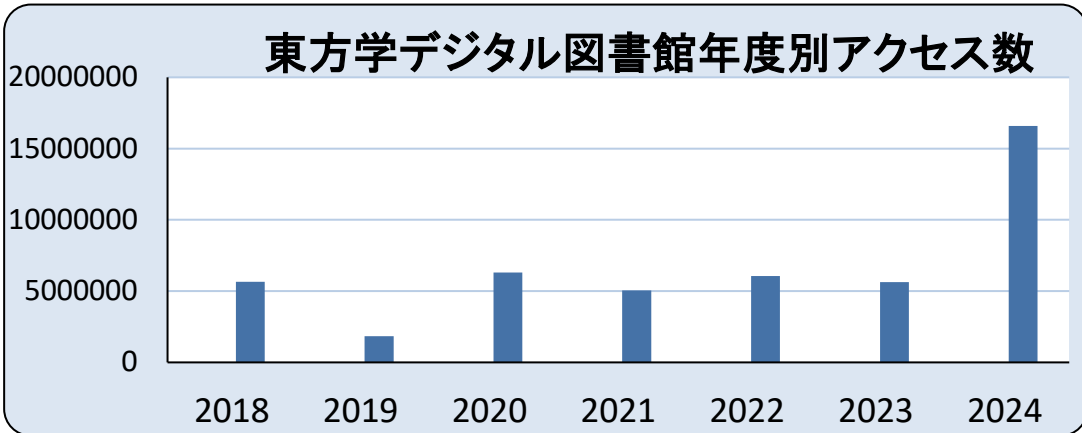
<その他のデータベース>

- ・中国学術雑誌全文DB(CNKI)
 - ・中国基本古籍庫
 - ・The Making of the Modern World
 - ・所蔵中国雑誌
 - ・地図
- など

拓本文字データベース (2005年2月18日運用開始)



東方学デジタル図書館 (2003年10月20日運用開始)

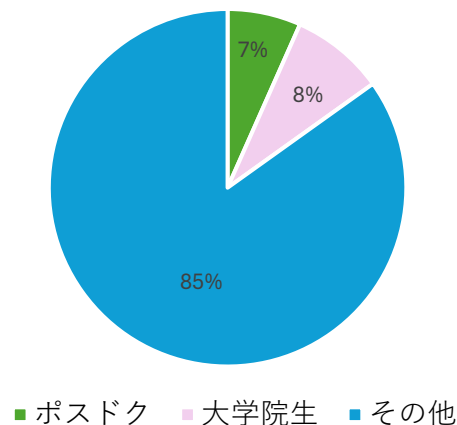


3. 共同研究を通じた人材育成

(1) 大学院生、ポスドク研究者への参加を呼びかけ

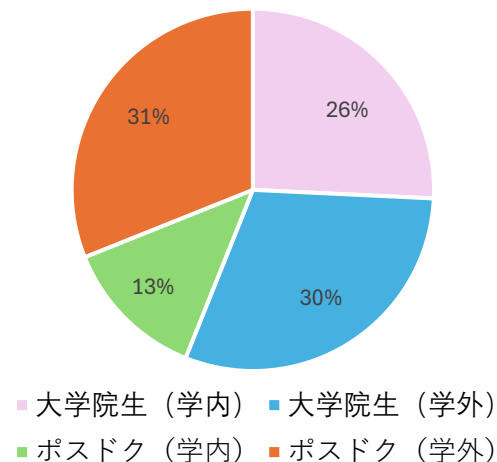
共同研究班員の構成 (全体の約1割が大学院生、ポスドク)

班員の大学院生・ポスドク



院生・ポスドクの 約6割が学外から参加

大学院生・ポスドクの内訳



(2) 日本学術振興会特別研究員や若手研究者の積極的受入れ

学振特別研究員	研修員	研究生	研究員	RA	OA	RF	合計
4	0	12	6	4	11	6	43

(2024年度実績)

4. 外国人研究者等の受入人数(2024年度)

招へい研究員	招へい 外国人学者	外国人 共同研究者	研修員	研究生
4	13	8	0	10

外国人研究者等出身国

中国、台湾、アメリカ、フランス、スイスなど

5. 学術交流協定締結状況

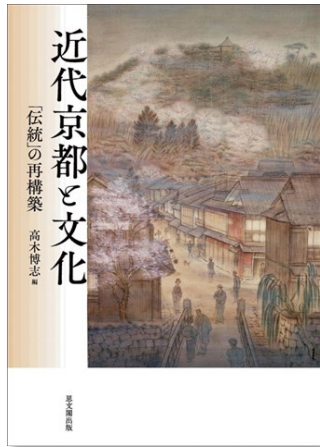
- ・フランス: フランス政治学財団(シアンス・ポ)、フランス国立極東学院、
国立高等研究実習院
- ・ドイツ: ミュンスター大学中国学・東アジア学研究所、ハンブルク大学アジア・アフリカ研究所
- ・アメリカ合衆国: ハーバード燕京研究所
- ・韓国: 東国大学校文化学院、韓国全北大学韓国科学文明学研究所
- ・中国: 中国政法大学法律古籍研究所、華東政法大学法律史研究センター、
南京大学域外漢籍研究所
- ・台湾: 中央研究院歴史語言研究所、中央研究院近代史研究所
中央研究院台灣史研究所、台灣大学文学院日本研究中心、台灣国家図書館

(16機関)

6. 共同研究でしか成し得ない研究成果

『疫病と人文学 あらがい、書きとめ、待ちうける』（岩波書店 2025年3月刊）

私たちを不意打ちしたパンデミックに対して、人文学は無力だったのだろうか。そうではない。私たちは過去の歴史に、あるいは人類の英知に学ぶことができる。同じ過ちと苦しみを繰り返さないために—13人の執筆者が、コロナ禍によってもたらされた傷を書きとめ、未来へ紡ぐ。暗中模索する人文学の、いまひとつの挑戦。



『近代京都と文化：「伝統」再構築』

（思文閣出版 2023年刊）

雅で貴族的な「国風文化」や祇園の「もてなしの文化」で代表される京都イメージを相対化するために、映画・美術・文学・民俗学・建築学など多様な視点から売春・芸能・差別・墓所といった広義の「文化」も視野に入れて近代京都論を再考する論文集。

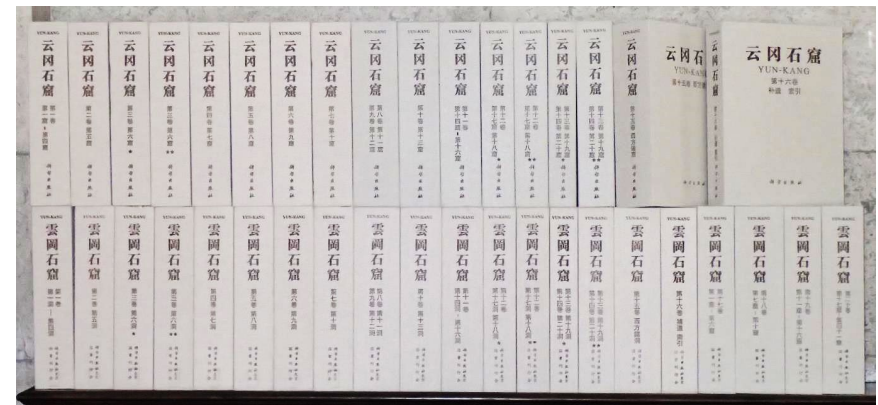
『雲岡石窟』全20巻42冊

（日英語版：科学出版社東京・国書刊行会 2013～2017年）

（中国語版：科学出版社 2014～2018年）

龍門と敦煌に並ぶ中国三大石窟の1つである雲岡石窟を包括的に調査した報告書。

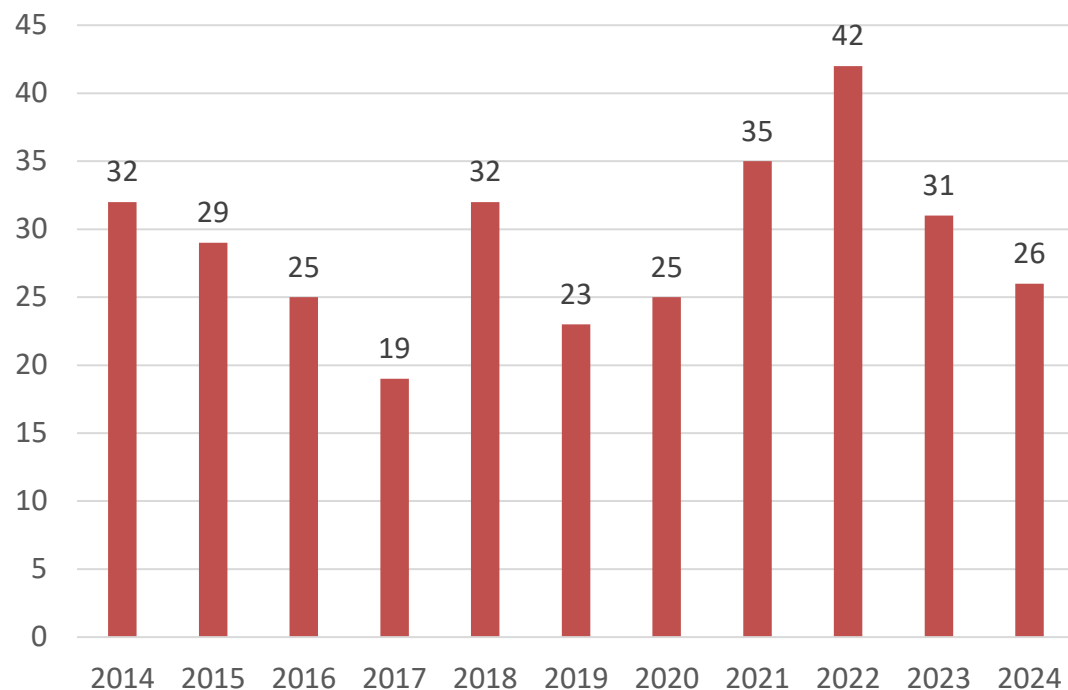
中国社会科学院考古研究所との共同編集により既刊の16巻に4巻9冊を増補。



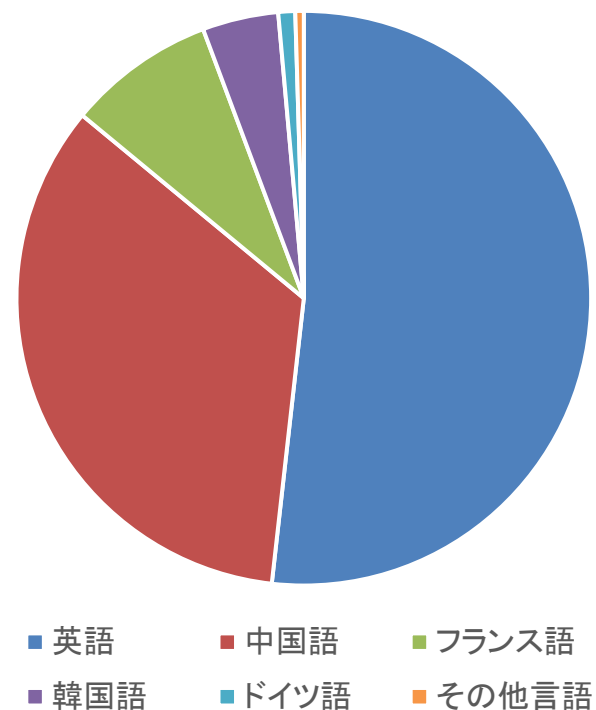
7. 国際著作物（著書・論文など）

毎年多数の成果：15年間で421件
英・中・仏・韓など多言語での発信

国際著作物発表数



言語



8. 外部資金 取得状況(2024年度)

金額単位:千円

	新学術領域研究 (研究領域提案型)		基盤研究 S		基盤研究 A		基盤研究 B		基盤研究 C		挑戦的 萌芽研究	
	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続
件数						2		6	1	13		
金額(千円)					16,000		17,600		12,850			

	若手研究		国際共同研究 加速強化		研究活動 スタート支援		研究成果促進経費		受託研究費		合 計	
	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続
件数	1	7	1			1				1	3	30
金額(千円)	7,400		10,700		900					287	65,737	

